

フィリピン国ダバオ市における一般廃棄物処理システム構築プロジェクト（2022年～2025年）

ごみの減量から回収まで、廃棄物処理プロセスを広く強化！

- **実施団体：**（公財）北九州市環境整備協会
（提案自治体：北九州市環境局）

- **対象国・地域：**
フィリピン国ダバオ市
- **現地カウンターパート**
ダバオ市環境天然資源局



■ 協力内容：

一般ごみ及び資源化物のごみ処理システムの確立。

1. 廃棄物収集・運搬・回収にかかる管理地図を作成する。
2. 対象地域の住民にごみ処理プロセスを周知し、統一したごみの分別・排出が実施されるようにする。
3. 一般ごみ/資源化物の収集・運搬・回収ルートを検証する。
4. 計画・マニュアル整備及び人材育成を行う。

■ 提案自治体のこれまでの取り組み：

- 先行案件（2017年～2020年）では、現地職員の人材育成、分別シートの作成と住民啓発、ごみ分別・減量支援を実施。
- 2017年11月に低炭素社会づくり、資源循環の仕組みづくり、両市職員の人材育成などについての協力関係の構築を目指し、ダバオ市と「環境姉妹都市提携に関する覚書」に署名。

■ 事業実施の背景：

- 近年の人口急増、経済成長を背景にダバオ市全体の廃棄物が1000トン/日を超え、最終処分場は耐用年数を2年を超えている。
- 先行案件の実施中に、家庭等から排出されたごみの収集・運搬、回収が適切に実施されていないことが要因でごみが流出し、処理プロセスの完結が阻害されている地域があることが判明した。

フィリピン国の課題と成果

課題

廃棄物の収集運搬能力が十分でなく、住民の理解や協力もあまりないために、捨てられたごみが適切に収集されずに居住地域や海岸線を汚染する事例が広くみられた。

成果

- ・対象地域における一般ごみ/資源化物の収集・運搬・回収プロセスを策定し、担当者を継続的に指導して廃棄物収集能力向上に繋がった。
- ・ごみの排出ルールから回収方法まで広く定めた廃棄物収集マニュアルを現地語で作成し、清掃担当者と住民に周知した。
- ・小学校でコンポストを中心とした環境教育活動や清掃キャンペーンを実施し、市民の意識改革に取り組んだ。

事業の波及効果



ダバオ市内他地域への普及展開！

- 本事業における対象地区の首長が独自予算での廃棄物収集ケージの導入と回収システムの継続を宣言しており、今後の展開と継続が期待される。
- 環境教育活動に協力した小学校でもコンポストや清掃活動が継続されており、更なる啓発効果が見込まれる。
- 本事業の活動結果を関係者や他地域の廃棄物管理担当者に共有するためのシンポジウムを開催し、約200名が参加した。